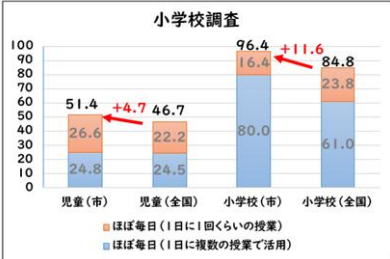
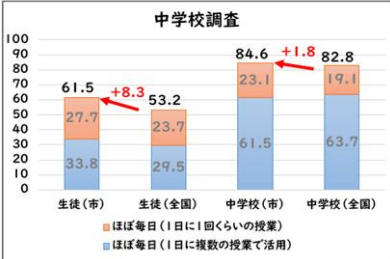


宮城県仙台市、山形県山形市の視察に向けた船橋市の ICT 教育・学校教育、校務等の生成 A I の活用状況について（概要）

項目と本市の状況 ＜ICT 教育＞	詳細（根拠・参考） 資料
① ○整備状況等 【整備状況】 ＜学習用端末＞ 小学校・特別支援学校：iPad 中学校：chromebook ※令和 8 年度末に小中学校ともに iPad へ更新 ＜大型提示装置＞ 普通教室：電子黒板 特別教室：令和 8 年度に理科室、音楽室への設置を予定 ＜学習用ソフト＞ Google Workspace ロイロノート・スクール Canva e-ライブラリ 【予算措置】 1 人 1 台端末の更新については公立学校情報機器整備事業費補助金を、特別教室の電子黒板導入についてデジタル活用推進事業債を活用する	
② ○活用状況 ・授業準備、評価等で活用している ・令和 7 年にすべての中学校へデジタル採点システムを導入した。これにより、採点業務における負担軽減が図られている。 ・令和 7 年末には市としての生成 AI ガイドラインを作成し、校務において Google Gemini の利用が可能となっている。 ・令和 7 年全国学力・学習状況調査より授業における活用は県・全国平均を上回る数値を示している。 ・家庭学習の活用については、市として一斉の指示は出していない。各学校の判断により持ち帰りを実施し、活用している。	

	授業におけるICT機器の利活用状況について PC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日使用している」と回答 小学校調査 <table border="1"><caption>小学校調査データ</caption><thead><tr><th>対象</th><th>ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)</th><th>ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)</th></tr></thead><tbody><tr><td>児童(市)</td><td>26.6</td><td>24.8</td></tr><tr><td>児童(全国)</td><td>22.2</td><td>24.5</td></tr><tr><td>小学校(市)</td><td>16.4</td><td>96.4</td></tr><tr><td>小学校(全国)</td><td>23.8</td><td>61.0</td></tr></tbody></table> 中学校調査 <table border="1"><caption>中学校調査データ</caption><thead><tr><th>対象</th><th>ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)</th><th>ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)</th></tr></thead><tbody><tr><td>生徒(市)</td><td>27.7</td><td>33.8</td></tr><tr><td>生徒(全国)</td><td>23.7</td><td>29.5</td></tr><tr><td>中学校(市)</td><td>23.1</td><td>84.6</td></tr><tr><td>中学校(全国)</td><td>19.1</td><td>82.8</td></tr></tbody></table>	対象	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	児童(市)	26.6	24.8	児童(全国)	22.2	24.5	小学校(市)	16.4	96.4	小学校(全国)	23.8	61.0	対象	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	生徒(市)	27.7	33.8	生徒(全国)	23.7	29.5	中学校(市)	23.1	84.6	中学校(全国)	19.1	82.8	
対象	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)																														
児童(市)	26.6	24.8																														
児童(全国)	22.2	24.5																														
小学校(市)	16.4	96.4																														
小学校(全国)	23.8	61.0																														
対象	ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)	ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)																														
生徒(市)	27.7	33.8																														
生徒(全国)	23.7	29.5																														
中学校(市)	23.1	84.6																														
中学校(全国)	19.1	82.8																														
③	○安全対策 ・学習用端末にはフィルタリングをかけ、有害サイト（アダルト、ギャンブル等）へのアクセスを防いでいる。また、学校からの要望を受け、サイトごとの随時フィルタリングをかけることもしている。 ・家庭(特に深夜帯)における過度の利用を防ぐため、小学校の iPad は保護者が利用時間の制限をかけられるようなシステムを導入している。中学校の chromebook は市で一律深夜帯（10：00～5：00）の利用ができないように設定している。																															
④	○現状の課題及び今後の展望 教員の指示による端末の利用にとどまり、学びを深めるような児童生徒主体の有効活用となっていない場面がみられる。解消のためには授業そのものの構成の仕方を変える「授業改善」が必要となるため、そこに向かうよう教員の意識を変えていくことが現在の課題である。																															

項目と本市の状況		詳細（根拠・参考） 資料
＜生成 AI＞		
⑤	【状況】 ・文部科学省の『初等中等教育段階における生成 AI の利活用ガイドライン（Ver. 2.0）』をもとに、令和 7 年 1 2 月に船橋市立小・中・特別支援学校『生成 AI 利活用ガイドブック』を作成し、校務・学習における生成 AI（Google Gemini）の利活用を開始した。 ・教職員においては令和 7 年 1 2 月から利用を可としている。利用に際しては遵守事項チェックシートへの回答を必須としている。 ・児童生徒においては令和 8 年 4 月より学校からの申請を受けて制限を解除し、利用できるようにしている。利用開始に向けては、	船橋市立小・中・特別支援学校『生成 AI 利活用ガイドブック』（第 3 版）

	生成 AI そのものを学習することや、保護者への説明を行い、理解を求めることとしている。 【予算措置】 ・特になし	
⑥	○活用事例 ・利用が始まったばかりであるため、具体的な事例はまだない ・教職員が校務で積極的に活用し、生成 AI への理解を深めている段階である ・令和 8 年 7 月末時点で児童生徒の利用開始申請を行った学校は小学校 3 校、中学校 7 校の計 10 校である（小学校 55 校、中学校 26 校、特別支援学校 2 校舎の計 83 校中）	
⑦	○現状の課題及び今後の展望 次期学習指導要領の方向性を鑑みると、生成 AI への理解は教職員だけでなく、児童生徒にもさせていくことが重要であると考え。そのうえで、生成 AI を使わせるのではなく、ツールとして利用するかどうかの判断を児童生徒が個々にできるような力を身につけさせていく必要がある。	

山形県山形市の視察に向けた船橋市の少人数教育に係る取組について（概要）

項目と本市の状況		詳細（根拠・参考） 資料																					
①	<小規模校について> 人口の偏りに伴い、過大規模校、大規模校、中規模校、小規模校が存在している。（特に市北部地域に小規模校が多い） 規模に合わせたカリキュラムの変更等は行っていない 人数が少ないことによる人間関係の構築のしやすさや、体験活動等においてはひとりひとりの活動が多くなるため、充実度の高まりなどはメリットとして挙げられるが、人数が少ないことは関係修復の難しさにも直結し、体験の規模も小さくなるなど、これらはデメリットになるものでもある。 ICT の活用方法や目的は大規模校も小規模校も異なるものではない。	規模別学校数 <table border="1"> <tr> <th></th><th>小</th><th>中</th></tr> <tr> <td>過大規模</td><td>4</td><td>1</td></tr> <tr> <td>大規模</td><td>8</td><td>6</td></tr> <tr> <td>標準規模</td><td>36</td><td>13</td></tr> <tr> <td>小規模</td><td>7</td><td>6</td></tr> <tr> <td>過小規模</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>55</td><td>26</td></tr> </table> （令和8年5月現在）		小	中	過大規模	4	1	大規模	8	6	標準規模	36	13	小規模	7	6	過小規模	0	0	合計	55	26
	小	中																					
過大規模	4	1																					
大規模	8	6																					
標準規模	36	13																					
小規模	7	6																					
過小規模	0	0																					
合計	55	26																					
②	<少人数指導について> 学級を習熟度別や等質で複数に分け、きめ細かな指導を目的に行う少人数指導は、本市においても算数・数学や英語等を中心に行われている。 少人数のメリットはひとりひとりに応じた指導がしやすいこと、特に習熟度別少人数指導の場合は、それぞれの学力に応じた指導ができることが最大のメリットである。これはとくに大規模校に対して効果を発揮しやすい。 一方、教職員や教室が不足しているなどの物理的要因により、少人数指導が実施できない場合もある。これも大規模校に顕著な課題である。																						